

(様式3号)

学 位 論 文 の 要 旨

氏名 大山 祐介

〔題名〕

クリティカルケア看護領域における comfort の概念モデル構築

〔要旨〕

クリティカルケア看護における comfort を明らかにするために3つのアプローチによる研究を実施した。

【研究1】

目的は、クリティカルケア看護における comfort の概念分析を行い comfort を定義することであった。Walker と Avant の概念分析方法を用いた。その結果、クリティカルな状況において、適切な医療者の介入を受けることで、患者が「痛みの緩和」「自立性」「平静」「満足」を知覚する経験と定義した。

【研究2】

目的は、急性・重症患者看護専門看護師が患者の comfort に向けたケアに関わる体験を明らかにすることであった。質的記述的研究方法を用いて、看護師 11 人に半構造化インタビューを行い、帰納的に分析した。その結果、「そもそも苦痛があるなかで、安楽のための関りが十分にできない」「人としてとことん向き合い安楽を意識することで、患者の状態と同調する」「患者の過去や将来を踏まえて現在の状態を見る」「一つひとつのケアから安楽を紡ぐ努力をする」「患者が発する反応の変化から安楽を感知する」の5個のカテゴリーが見出された。看護師の comfort に対する構え、comfort に向けたケア、そして comfort に向けたケアの評価という一連の流れを示すことができた。

【研究3】

目的は、重症患者の comfort の構成概念妥当性を検証することであった。対象者はクリティカルケアの看護師 120 人で、「クリティカルケア看護における comfort 項目」について適切性を回答してもらった。確証的因子分析の結果、2 因子構造（患者の主観により評価する comfort と看護師の観察により評価する comfort）のモデル適合は基準値を満たし、潜在変数間のパス係数は.61 であった。これらの結果は、本研究の仮説を支持し、クリティカルケア看護における comfort の構成概念妥当性が確認できた。

【結論】

クリティカルケア看護における comfort は「症状の緩和」「自立性」「平静」「満足」「生理的反応の安定」「落ち着いた行動・睡眠」を視点として観察することができ、患者の目標となりうる。

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1627号	氏 名	大山 祐介
論文審査担当者	主査教授	田中 愛子	
	副査教授	安達圭一郎	
	副査教授	山勢 博彰	
学位論文題目 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
クリティカルケア看護領域における comfort の概念モデル構築			
学位論文の関連論文題目 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
Verification of construct validity for comfort indicators of critical ill patients (重症患者の comfort の構成概念妥当性検証)			
掲載雑誌名 日本クリティカルケア看護学会誌 (2021 年掲載 (掲載予定))			
(論文審査の要旨)			
<p>申請された学位論文は、クリティカルケア看護領域における comfort を明らかにし comfort の概念モデル構築を行うことを目的とし、以下の3つの研究から構成されている。</p> <p>【研究1】 クリティカルケア看護における comfort を定義する目的で Walker と Avant の方法に基づく概念分析が行われた。結果として、comfort とは、クリティカルケアな状態において適切な医療者の介入を受けることで患者の「痛みの緩和」「自律性」「平静」「満足」を知覚する経験と定義された。</p> <p>【研究2】 急性・重症患者看護専門看護師の comfort に向けた患者のケアに関わる体験を明らかにする目的で、11人の看護師を対象に半構造化インタビューが行われ、帰納的に分析された。結果、5つのカテゴリーとともに、看護師の comfort に対する構え、ケア、ケアの評価という一連の流れが示された。</p> <p>【研究3】 重症患者の comfort の構成概念妥当性を検証する目的で、クリティカルケアの看護師120人を対象に「クリティカルケア看護における comfort 項目」の適切性のオンライン質問紙調査が行われた。確認的因子分析の結果、2因子構造(患者の主観により評価する comfort と看護師の観察により評価する comfort)が明らかにされ、comfort の構成概念妥当性が確認された。</p> <p>一連の研究は、国内外の広範囲かつ詳細な文献検討と概念分析をはじめ綿密に計画され、学位論文は、クリティカルケア看護領域の comfort の概念モデル構築に向けた着実な歩みが内容豊かに展開されている。研究1研究2は、すでに学会誌で公表されており、英文で執筆された研究3は、本年度中には公表される予定であり、研究成果の社会への発信にも精力的であった。クリティカルケア領域における comfort の概念モデル構築研究は、本邦では初の取り組みであるとともに、臨床において苦痛を伴う重症患者に平静や満足を齎す看護実践への道筋として貢献するものと思われる。審査委員会は、申請された学位論文が博士(保健学)にふさわしい価値あるものと認める。</p>			
以上			

備考 審査の要旨は800字以内とすること。